

「小規模建築物基礎設計指針」の刊行

小規模建築物基礎設計指針(平成20年2月25日刊行)

かねてよりご案内いたしておりました「小規模建築物基礎設計指針」が先月(2月)に刊行されました。今回はこの設計指針の概要についてお届けし、次回以降は数回にわたり、当社が担当した第10章の「基礎の障害と修復」についてご紹介いたします。

【「小規模建築物基礎設計指針」刊行の経緯】

この指針の刊行の経緯などについて「序章」よりご紹介します。

(序章の抜粋要約)

本会(日本建築学会)の「小規模建築物基礎設計の手引き」は、1988年1月に刊行され、これまで小規模建築物の地盤調査と基礎設計に関する学術・技術の発展に大きく貢献してきたが、1998年「建築基準法」の改正や2000年「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の施行、不同沈下障害や造成宅地地盤のトラブル、地震時の被害など、小規模建築物の地盤調査や基礎の設計を取り巻く環境も大きく変化し、刊行から20年経った現行手引きの改訂を望む声が強くなった。

このような背景のもと、2000年4月に「小規模建築物基礎小委員会」、2004月に「小規模建築物基礎設計の手引き改定小委員会」が発足し、具体的な改定作業を開始した。改定作業と共に地盤調査や基礎設計に関する調査研究、3回のシンポジウムの開催、中越地震における被害調査報告などを行い、これらの活動成果を反映して、小規模建築物の地盤調査や基礎の設計に関する技術水準の向上を目的として本書を刊行することとなった。刊行するにあたっては書名を「手引き」から「設計指針」に変更し、内容も相応しく改定することとした。

【目次構成】

第1章	総則
第2章	事前調査
第3章	地盤調査
第4章	荷重
第5章	基礎の計画
第6章	直接基礎の設計
第7章	地盤補強の設計
第8章	擁壁・地下室と山留め
第9章	施工・品質管理
第10章	基礎の障害と修復
第11章	環境への配慮
第12章	造成宅地地盤
計算例(13例)・付録・索引	

以上 全355ページ



【まとめ】

この指針は主に、事業損失で被害の多い小規模建築物＝戸建住宅を対象としています。

本書は「設計指針」でありながら、「施工品質管理」「沈下障害や修復」「環境への配慮」「造成宅地地盤」など、設計ばかりでなく、住宅の周辺諸問題についても扱っているのが特色です。とりわけ「第10章 基礎の障害と修復」は、取り扱うこと自体適切でないとの意見もありましたが、極めて要望が多く、現状の問題点としてその重要性が窺えます。この章では沈下状況の調査や修復方法の選定などを扱っており、事業損失の沈下被害においては非常に有用な内容と言えます。